

— 創業者・岩崎輝明の抱いた志

食改善で真の健康をお届けする——この基本理念のもと、岩崎輝明が当社を創業したのは昭和四十六年、二十七歳の時です。岩崎は松下幸之助を尊敬していましたが、それは学歴もなく、病弱で、貧しかった松下幸之助と自身の境遇が重なるからでしょう。岩崎もまた、一見マイナスに思えるこの三つの要素を人生のアドバンテージに変えた人でした。

高校を中退し、札幌に出てきた岩崎は、繊維問屋の営業で頭角を現します。ところが、過労から体を壊し、妻と二人の幼い娘も健康不安を抱えていました。そんな折、ある人から玄米食を勧められ食生活を変えたところ、みるみるうちに元気を取り戻したのです。岩崎自身は元氣になりましたが、

出逢いは 運命を変える

五十五年。北海道銀行の新米営業マンとして、飛び込んだ先が創業十年目の玄米酵素だったのです。

当時は自宅兼用の小さな事務所でした。「取引銀行は変えられないから」と断られ続けたのですが、徐々に受け入れてもらい、ある時ついに当座預金の口座を開設してくれたのです。初めて獲得した法人口座でしたからとても嬉しかったことを昨日のように覚えています。当時、岩崎は一軒一軒商品を売り歩き、経理を担当していた奥様には社長自らの給料を補填してまで資金繰りをしていました。そういった厳しい経営状況にもかかわらず、岩崎夫妻の目はいつもキラキラ輝き、やる気に満ち溢れている。私はその姿に惚れ込んで何でも手伝うようになり、逆に岩崎も事あるごとに「鹿内君、鹿内君」と頼ってくれるようになりました。そして、いつし

家族は玄米食を続けることはできませんでした。

同じ頃、千葉県の酵素研究家・岡田悦次氏が、玄米を麹菌で発酵させた「玄米酵素」の開発に成功したことを知ります。家族も続かなかった玄米食が、これなら続けられる。「これだ！」と閃いた岩崎は事業化に突き進みます。今日では健康志向が高まっているものの、当時は高度経済成長の真っ只中。世間的な関心がほとんどない時代に、二十七歳の若さで健康食品の会社をゼロから創り上げたわけですから、その覚悟たるや並々ならぬものだったに違いありません。

— 食の分野から日本の未来を守り抜く

出逢いは運命を変えたいと言いますが、まさに岩崎との出逢いは私の人生を大きく変えました。初めて出逢ったのは昭和

株式会社
玄米酵素
代表取締役社長
鹿内正孝



か会うたびに「うちへ来いや。一緒にやろう。あんたがいい」と声を掛けてくれるようになったのです。

年月が流れ、出逢ってから二十五年が経った平成十七年十二月、当時北海道銀行の常務を務めていた私は、「ニコニコ笑いながら死んだ気になって一緒に仕事をしよう」という岩崎の一言に転職を決意。翌年、専務として迎えられ、岩崎の片腕となって東奔西走する日々を過ごしました。

いまから二年前、岩崎は不慮の事故で帰らぬ人となってしまいました。ここでもどまっているわけにはいきません。食改善の考え方と玄米酵素で真の健康をお届けするという岩崎イズムを引き継ぎ、玄米酵素を日本に育ててはならない企業にする。そして、食の分野から日本の未来、子供たちを守り抜く。それが私の志です。

取材・執筆／致知編集部

「玄米+酵素+ビフィズス菌」

で、毎日の健康づくりを応援します！



玄米と麹菌(酵素)の力を、3.5gに凝縮しました。

おかげさまで44年

食改善で真の健康をお届けする



株式会社

玄米酵素®

〒001-0012 北海道札幌市北区北12条西1丁目1-1
TEL(011)736-2345(代)

<http://www.genmaikoso.co.jp/>

玄米酵素

ケアごはん

ふぶらぼ

病気別の食事レシピを公開しています

FBRA(玄米酵素の学術名)の研究成果を公開しています